

バレエ&ダンス版 ぶらあぼ

DANZA ダンツア

Take
無料
Free!

2010
4 → 5
2010

バレエ／ダンス／フラメンコ
第 27 号

カバー・ストーリー

マリアネラ・
ヌニエス

特集

英国ロイヤル・バレエ
来日特集

クローズアップ

インタビュー

フェデリコ・ボネッリ

サラ・ラム

国内&
海外ニュース

2010年4月／5月
公演情報

DVD・BOOK

マリアネラ・ヌニエス
撮影：中島正之





底知れぬ才能でダンス界の次世代を担う

『ル・スフル・ドゥ・レスプリ』
©池上直哉

ドレスデン国立歌劇場バレエ団のプリンシパルであり振付家のイリ・ブベニチエクと、ハンブルク・バレエ団のプリンシパルで作曲家としても活躍するオットー・ブベニチエク。この双子の兄弟の、何と才気溢れることが。今公演をもって、作家として本格的な日本デビューを果たした二人。彼らの底知れぬ可能性と魅力のほどを、たっぷりと知らしめるステージとなった。今回上演されたのは、イリ振付・オットー作曲の日本初演作『辿り着かない場所』を含む3作品。幕開けからして、まず目を奪う。セットと一体になり纏く3組の男女。そ

の呪縛が解き放たれたとき、終わりなきドラマが始まり——。また忘れないのが、ラストを飾った作品『ル・スフル・ドゥ・レスプリ—魂のため息—』での、イリとオットーによるデュエット・シーンだ。鍛え抜かれた肉体が描く力強いラインと、尽きることないエナジー。彼らが提示する圧倒的な美的水準に、ひたすら息を呑むばかり。ダンス界の次世代を担う非凡なるアーティスト・ブベニチエク兄弟。ただならぬ逸材との出会いに、胸高鳴る一夜となった。

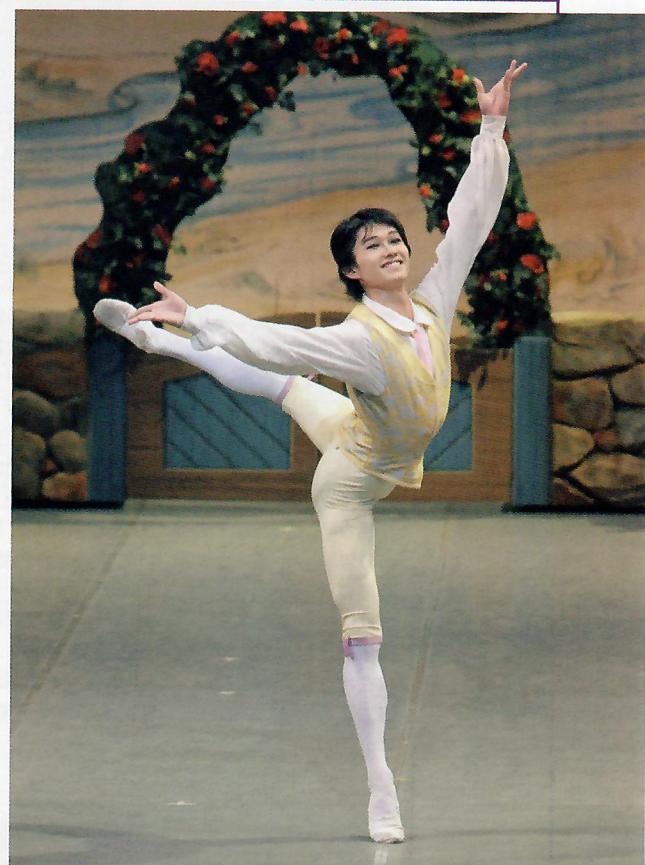
文:小野寺悦子 Etsuko ONODERA

記念すべきニジンスカ版の全幕上演

本公演をもって初の『ラ・フィユ・マル・ガルデ』全幕挑戦を果たしたNBAバレエ団。加えて今回上演されたニジンスカ版は日本初演にもあたり、注目と期待を中心に集めての開幕となった。

この日主演を務めたのは峰岸千晶。今作でプリンシパル・デビューとなった峰岸だが、入団は2001年とそのキャリアは長い。劇中はクルクルと変わる豊かな表情と、全身をフルに使った体当たりの演技でコメディエンヌぶりを發揮。初の大役とは思えぬ物怖じしない舞台度胸が、着実に積み重ねてきた歳月を物語る。パートナーのコーラスに扮したのは、躍進目覚ましい同団の若きプリンシパル、秋元康臣。スラリとバランスのとれた瘦躯に現代風のルックス、そしてどこまでも爽やかな笑顔……。ひとたび秋元がステージにあらわれると、自然と観客の視線を奪ってしまう。柔軟な関節が生む高く軽やかなジャンプも実際に見事で、舞台いっぱいに瑞々しいエネルギーを振りまいていた。ショパン生誕200年記念として安達哲治振付の『ラスト・コンサート』も古澤良主演で同時上演された。

文:小野寺悦子 Etsuko ONODERA



秋元康臣
©鹿島隆司